

～校外学習～

探訪先：石山寺・瀬田の唐橋・建部大社

日時：10月30日（月）10：30～15：30

秋紅葉には少し早いですが、秋の遠足で瀬田地区を散策しました。



京阪石山寺駅から探訪開始



石山寺東大門



紫式部像



瀬田の唐橋を望む



建部大社

「石山寺」

天皇勅願により高僧良弁が開基・西国巡礼13番札所・本尊如意輪観世音菩薩・東寺真言宗・創建747年・月見亭からの秋月は近江八景の一つ。

東大門を入り金龍龍王社、大黒天をお参りし、くぐり岩を横目で見ながら階段を上りました。観音堂・毘沙門堂を拝み、良弁の杖桜・石山の語源となった珪灰石を見学し、蓮如堂・本堂・三十八所権現社をお参りし、経蔵・安産の腰掛け石・多宝塔・鐘楼・芭蕉庵・月見亭を見学し、御影堂を拝み階段をおりました。



この階段、少しきつかった



石山の語源 珪灰石



色づき始めた紅葉の多宝塔

残念乍ら、紫式部展は見ませんでした。皆さんはもっと沢山の見学をされたと思いますが、杖を片手の歴史大好き素浪人：筆者にはこれで精一杯でした。

「瀬田の唐橋」

琵琶湖から流れ出る唯一の川（瀬田川）に架かる瀬田の唐橋は、宇治橋、山崎橋と共に日本三大古橋と云われております（全長223.7M）。

橋脚遺稿から4回に渡り掛け替えられたらしく、最初は667年天智天皇の天津宮遷都の頃と云われている。その強固な構造は天智天皇の命により近江に強制移動させられた渡来人（百済人、新羅系百済人）の技術と云われており唐橋の語源になったようです。

西へ向かうには、唐橋を渡るより琵琶湖を渡る方が早いですが、天候に左右される事がある為欠航も多く、急がば回れの諺が出来たようです。

当橋は、東海道、中山道から京、大坂への交通の要衝地であり、古来より（唐橋を制する者は天下を制す）といわれておりました。

ここから眺める瀬田の夕日は近江八景の一つで、欄干に取り付けられた手すりを繋ぐ擬宝珠は必見とのこと。



歴史大好き素浪人から説明



急がば回れ瀬田の唐橋



瀬田の唐橋を渡る

「激戦、戦場となった唐橋」

- ① 神功摂政元年（201年）、皇后の命令で応神天皇を護る武内宿祢大臣、建振熊の軍勢に攻撃された仲哀天皇の正室の皇子（忍熊皇子）は、この近辺で入水自殺を図り若い命を失ったと云われています。
- ② 672年壬申の乱では。天智天皇亡き後、弟・大海人皇子と・子息の大友皇子との伯父、甥間での後継者争いがありました。
大海人皇子の素早い動き、子息高市皇子と大津皇子の素早い近江朝からの脱出とその後の大活躍、蘇我系をはじめとする多くの味方が居たと云われています。
- ③ 764年、後盾であった光明皇后の死後、道鏡左遷等で権力の維持を図る藤原仲麻呂が反乱を起し、孝謙天皇、吉備真備軍に敗れた戦。近江国庁に政府を作ろうとしたが、朝廷軍に瀬田橋を焼かれ、琵琶湖西岸の高島郡を北上中に敗死。
- ③ 天慶3年（940年）、横たわる大蛇を踏みつけて唐橋を渡り、その勇気を感じた大蛇の依頼で三上山（近江富士）の百足を退治したとの逸話もあります（俵藤太逸話）。

⑤ 1221年、鎌倉幕府執権北条義時討伐令を發し、長男・北条泰時軍に完敗した後鳥羽上皇の戦。この後、3上皇の流罪、1天皇の排斥が決まり、六波羅探題設置が本格化し、北条執権政治が安定してゆきます。

⑥ 織田信長を本能寺で焼き討ちにした明智光秀軍が安土城に向かう途中、織田方に瀬田唐橋を焼かれ進軍が遅れ、作戦に大きな狂いが生じたと言われています。

「建部大社」



建部大社本殿



宮司さんから説明を受ける



奥に天然の菊花石が見える

ご祭神は本殿・日本武尊、相殿・天照皇大神、権殿・大己貴命（大国主神）。近江一宮。675年近江守護神として現在地に遷座となっているが、社伝では755年に現在地に鎮座したとなっています。

境内は、上座4摂社（日本武尊の父、母、妃、子）・下座4摂社（家臣等）が整然と並んでいました。

神社の宝物も沢山あります。女神像（日本武尊の妃、子）・日本最古の石灯籠（蒙古襲来時の国家安泰祈願）・菊花石・さざれ石等で、日本最初の千円札原本は秘扱いになっているとか。

源頼朝が伊豆に流される前に当大社で、源氏再興を祈願し、大願成就した話は有名で、出世開運の神と広く崇敬されています。



ヤマトタケルまぼろしの千円札



さざれ石



源頼朝 出世水

今回の遠足実施に当たり、事前調査、事前訪問、事前予約、資料作成等に尽力された幹事様に厚くお礼を申し上げます。

記事：A班 歴史好き素浪人